

競馬ファンの夢の舞台へ、競争馬を万全な状態で運ぶ

調教師が信頼を寄せる、優れたスタッフと最新鋭の馬運車

関西随一の実績と信頼を集める ストレスフリーの輸送

「馬にとって移動のストレスは大きい。私たちの使命は、厩舎が仕上げた馬の状態を完璧に保ち、無事に送り届けることだ」と話すのは、鷹野運送の鷹野衛社長。同社は日本中央競馬会（JRA）の栗東トレーニングセンターを起点に、各地の競馬場や牧場との間の競走馬輸送を行う運送会社だ。



馬と人を快適に運ぶ最新鋭の馬運車

当する馬に合った輸送方法をヒアリングするためだ。馬にはそれぞれ性格や特徴の違いがあり、輸送や積み下ろしに異なる対応が必要となる。例えば車中で隣の馬がいるのを好まない馬もいれば、体が大きいために枠を取り外さなければならぬ馬もいる。これらの要望にきめ細かく対応するために、営業担当は一頭一頭の気性や癖の情報を日頃から収集し、顧客満足度の高い輸送の実現に役立っている。

進化を続ける独自の馬運車が 馬と人の快適な輸送を支える

馬運車の改良にも、同社は常に取り組んできた。毎年最新の車両を独自開発している同社は、振動を低減するエアサス、ベンションを全軸に採用し、馬の様子をチェックできるモニターカメラ、馬を落ち着かせる音楽を聴かせるスピーカーカー等を装備するなど、これまでになかった工夫を凝らしてきた。

今年導入した馬運車には、マイナスイオン発生機能を備えたエアコンと、NASA（アメリカ航空宇宙局）がロケットに使用している遮熱塗料を業界で初めて採用。この新たな改良によって、空気中に浮遊する雑菌を除去し、馬の輸送熱を予防するとともに、効率よく適温を保つことに成功した。さらに、運転席の上をドライバーの仮眠場所を設けることで、同乗する厩務員のスペースを拡大し、長時間の輸送でもリラックスできる空間を確保した。

馬運車の開発には、社長自ら改良のアイデア

社だ。関西の馬匹輸送業界では群を抜く規模と実績を誇り、輸送のために特別な設計設備を施された馬運車を41台所有、1年間に運ぶ競走馬は2万頭を超えるという。

栗東トレーニングセンターには現在100余りの厩舎があるが、そのうちの4割強が同社を利用している。同社が高度な運転技術と万全の危機管理体制、顧客との緊密なコミュニケーション、最新鋭の馬運車など馬匹輸送に必要な要素をすべて高い水準でクリアしているからだ。

輸送中の車両トラブルを防ぐ スタッフの高い技術力と知識

同社のドライバーには、大型トラックもしくはトレーラーの運転手としての実務経験が10年以上あることと、無事故無違反であることが求められる。「これらはあくまでも最低条件。採用の際には面接だけでなく、馬運車を運転する実技試験も行っている。馬の安全を守るかはもちろんのこと、ほかの車に迷惑をかけず、気配りのできる運転ができるかも重視している。先の状況を予測し、円滑な運転ができる力が必要だから



馬運車の車内の様子

を出すとともに、現場の意見を集約して車体架装メーカーと検証にあたる。こうして開発される独自の馬運車は、レイアウトの構想を含めると誕生までに約1年もの期間を要するという。「輸送のレベルを高め、お客さまの信頼を守るためには、手間暇もコストも惜しまない。『馬も人も快適に、万全の状態を運ぶ』という、創業当初から変わらない信念のもとに、今後もよりよい馬運車の姿を追求していきたい」と、鷹野社長は強い思いを語る。

信頼の積み重ねこそ財産 世界を舞台に馬匹輸送を

安定して業績を伸ばしてきた同社の歴史にも波乱はあった。8年前、先代社長が52歳の若さで他界し、息子である鷹野社長が25歳で後継を継いだときだ。「父が生きている間に少しでも仕事を覚えたいと、寝る間も惜しんで働いた。そんな中で非常にありがたかったのは、調教師や厩務員の

だ。通常、札幌までの輸送には約24時間を要するが、ベテランのドライバーになると、どこに悪条件の箇所があるかすべて頭の中に入れて、最適なルートを描くことができる」と鷹野社長。確かな技術を備えたドライバーだからこそ、トラブルに対しても迅速に対応することができるという。「馬という生き物を輸送する以上、予期せぬ問題はつきもの。事態に際して、輸送のプロとして素早く判断を下し、馬の負担を最小限に食い止めることが当社のドライバーの使命だ」。

同社の危機管理体制は、ドライバーの育成にとどまらない。専門の整備部門を擁している点も他社にはない特徴だ。同社の整備士は日頃から丹念に車両メンテナンスを行い、馬運車の状態を維持している。さらに競馬場への輸送の際には馬運車に同乗し、道中のトラブルに備えている。この体制が奏功し、これまで輸送中の車両トラブルは一度も起こったことがないという。

また、毎朝未明から調教スタンドに顔を出し、調教師や厩務員と密接なコミュニケーションを図る営業担当者も、同社のハイレベルな輸送には欠かせない。輸送の依頼を受けるだけでなく、担



馬の気性や癖を把握して輸送する

方々が力になってくださったこと。先代までに築いてきた信頼関係や、つながりの深さを感じた」と鷹野社長は振り返る。苦難を乗り越え、同社は新たな展開へと向かっている。

昨年、フランスの「凱旋門賞」での競走馬オルフェールの活躍は、社会的にも大きな話題となった。同社はオルフェールを成田空港へと送り届けることで、その活躍に貢献した。競馬界でも海外が身近なものになる中で、海外を見据えた変化が訪れようとしている。鷹野社長自身もアメリカを視察し、現地の競馬場や馬匹輸送を目にして、日本との違いを実感したという。「日本の馬が海外で勝つことは日本の競馬界の悲願。その夢に当社も貢献したい。競馬界はこれから新たな発展を遂げると信じている。馬匹輸送業の海外展開も夢ではなくなるだろう。そのためにも、社員一人ひとりが意識を高め、ワンランク上の輸送を提供していきたい」と、鷹野社長は更なる飛躍への決意を語った。

※輸送熱/馬を長時間輸送する場合や、疲労が蓄積している時に輸送することで発症する病気で、風邪と同様の症状を示す。輸送車内に排泄物が蓄積することで雑菌が繁殖し空気中に浮遊することが原因とされる。



Voice 代表取締役 鷹野 衛氏

半世紀以上にわたって、馬の輸送に取り組んでまいりました。創業当初からの「馬と人を快適に運ぶ」という信念のもと、よりよい輸送環境を追求し続けています。独自に開発した馬運車と、スタッフ全員の「総合力」でお客さまの信頼に応えます。

Profile 鷹野運送株式会社



- 本社/長岡京市調子1-12-3
- 栗東営業所/栗東市小野371-1
- 設立/1959年
- 資本金/1,000万円
- 従業員数/50名
- 事業内容/競走馬の運送